東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009年10月23日

挨拶

ムスリムの皆様。我々の宗教において礼儀作法はとても大切にされています。それらの中で一番重要なのは互いに挨拶しあうことといえます。挨拶は、社会において交流と相互援助の精神を強めます。人と人との結びつきを強くします。そして愛する我々の預言者は『あなた達へお互いの愛情を深める一つのことを教えましょうか？』と尋ねた後、『あなた方の間で挨拶を広めなさい。』と語りました。.[1] イスラームにおいて挨拶することはスンナで、その挨拶を返すことは挨拶した人がされた人に対して持っている権利です。

それぞれの宗教や民族的伝統において様々な挨拶な言葉があります。イスラームの伝統において挨拶は『サラームン・アライクム』あるいは『アッ＝サラーム・アライクム』という形でなされます。相手の方は、『ワ・アライクムッサラーム』と返事します。この言葉は「アッラーからの平安があなたたちの上にありますように」つまり「アッラーがあなた達に健康と安心を与えますように」という意味を持つ祈りの言葉です。さらにこれは聖クルアーンの中にあり、かつ愛する預言者様も用いられ、そしてムスリム達へ教えた挨拶の形です。言い換えれば、その表現は、スンナに最も適した挨拶の言葉です。したがってムスリムには当然、それらの言葉を用いることが薦められています。

兄弟や姉妹の皆様。そもそも、表現の形式よりもっと大切なのは、その言葉に秘められた良心、そして純粋な心と願いです。つまり挨拶した人々に対し、心から感じている愛情と敬意です。挨拶することはムスリム達がお互いを知るための第一歩であり、人々の間に友情や親しくなる機会を齎す道徳的かつ社会的な責任です。

聖クルアーンの教えによれば天国に入るムスリム達に対する天使達の最初の言葉は『サラームン・アライクム』です。そのことを説く節では次のように語られておられます。「またかれらの主を畏れたものは、集団をなして楽園に駆られる。かれらがそこに到着した時、楽園の諸門は開かれる。そしてその門番は、『あなたがたに平安あれ、あなたがたは立派であった。ここに御入りなさい。永遠の住まいです』と言う」[2]

親愛なるムスリムの皆様。ムスリムが、家に入った時には配偶者や子供達へ、職場では友達や同僚達へ、道で合ったムスリムの兄弟達へ挨拶を行うことは、アッラーのご満悦を得る為の機会になります。実際アッラーの使徒の一番近い教友の一人であるアナス・ビン・マーリクによって伝えられた伝承によると、聖預言者は通りで遊んでいる子供達にも挨拶されていました。

今日のフトバを、次の節の訳で締めくくりたいと思います。「あなたがたが挨拶された時は、更に丁重な挨拶をするか、または同様の挨拶を返せ。誠にアッラーは凡てのことを清算なされる。」[3]

[1] ティルミザィ, キヤーマ, 42; ムスリム, イーマーン, 93; エブーダーブード, エデブ, 131; イビン・マージャ, エデブ, 11.

[2] 第39章第73節

[3] 第4章第86節